2017 年 9 月 28 日 ・

舟木一夫といえば、高校三年生が浮かんで来ます。自分が中学 2.3 年頃でした。

『高校三年生 』
作詞：丘灯至夫 作曲：遠藤実

赤い夕日が 校舎をそめて
ニレの木陰に 弾む声
ああ 高校三年生 ぼくら
離れ離れに なろうとも
クラス仲間は いつまでも

泣いた日もある 怨んだことも
思いだすだろ なつかしく
ああ 高校三年生 ぼくら
フォークダンスの 手をとれば
甘く匂うよ 黒髪が

残り少ない 日数(ひかず)を胸に
夢がはばたく 遠い空
ああ 高校三年生 ぼくら
道はそれぞれ 別れても
越えて歌おう この歌を

2017 年 9 月 26 日 ・

もう一つ「りんご」に寄せて。心の中にそっとしまっておきたくなる歌です。

『初 恋』
作詞：島崎藤村 作曲：若松 甲 (若菜集 明治 30 年(1897))

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり

やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅の秋の実に
人こひ初めしはじめなり

わがこゝろなきためいきの
その髪の毛にかゝるとき
たのしき恋の盃を
君が情に酌みしかな

林檎畑の樹(こ)の下に
おのづからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ

2017 年 9 月 24 日 ・

カチューシャはエカテリーナの愛称。りんごと言ってもりんごの花なので季節はずれになりますが。

『カチューシャ』
作詞：ミハイル・イサコフスキー
作曲：マトヴェーイ・ブランテル (1938) 日本語詞：関 鑑子
(日本では戦後他のロシア民謡と共に流行)

１　りんごの花ほころび　川面に霞たち
　君なき里にも　春はしのびよりぬ
　君なき里にも　春はしのびよりぬ

２　岸辺に立ちて歌う　カチューシャの歌
　春風やさしくふき　夢がわくみ空よ
　春風やさしくふき　夢がわくみ空よ

３　カチューシャの歌声　はるかに丘をこえ
　今なお君をたずねて　やさしその歌声
　今なお君をたずねて　やさしその歌声

４　りんごの花ほころび　川面に霞たち
　君なき里にも　春はしのびよりぬ
　君なき里にも　春はしのびよりぬ

2017 年 9 月 23 日 ・

サトウハチローが「りんごの唄」を作ったのは戦時中だったのですが、「軟弱である」という理由で検閲不許可となり、終戦後やっと日の目を見たということです。1945 年の発表。日本の戦後のヒット曲第 1 号となりました。

『リンゴの唄』
作詞: サトウハチロー　作曲: 万城目正

赤いリンゴに　口びるよせて
だまってみている　青い空
リンゴはなんにも　いわないけれど
リンゴの気持は　よくわかる
リンゴ可愛(かわ)いや可愛いやリンゴ

あの娘(こ)よい子だ　気立てのよい娘
リンゴによく似た　かわいい娘
どなたが言ったか　うれしいうわさ
かるいクシャミも　とんで出る
リンゴ可愛いや可愛いやリンゴ

朝のあいさつ　夕べの別れ
いとしいリンゴに　ささやけば
言葉は出さずに　小くびをまげて
あすもまたネと　夢見顔
リンゴ可愛いや可愛いやリンゴ

歌いましょうか　リンゴの歌を
二人で歌えば　なおたのし
みんなで歌えば　なおなおうれし
リンゴの気持を　伝えよか
リンゴ可愛いや可愛いやリンゴ

2017 年 9 月 21 日 ・

りんごにまつわる歌をいくつか。「りんごのひとりごと」は昭和 15 年（1940)に発表された歌で、作詞の竹内俊子さんが入院中にお見舞いに贈られたりんごを見て浮かんだ詞ということです。

『りんごのひとりごと』
作詞：武内俊子　作曲：河村光陽

（一）
わたしは真赤な　りんごです
お国は寒い　北の国
りんご畑の　晴れた日に
箱につめられ　汽車ポッポ
町の市場へ　着きました
りんご　りんご　りんご

りんごかわいい　ひとりごと

（二）
果物店(みせ)の　おじさんに
お顔をきれいに　磨かれて
みんな並んだ　お店先
青いお空を　見るたびに
りんご畑を　おもいだす
りんご　りんご　りんご
りんごかわいい　ひとりごと

2017 年 9 月 18 日 ・

「叱られて」は「雀の学校」(9/12 投稿)と同じ清水かつら・弘田龍太郎コンビの作品で、大正 9 年(1920)4 月に少女雑誌「少女号」上で発表されました。清水かつら(名前から女性かと思いましたが男性です)は東京深川の生まれで、母は離婚し、継母に育てられました。1 番の「あの子」と「この子」、2 番の「二人のお里はあの山を」の二人はかつらと実の弟を指しているのではないかとも言われています。みどりのそよ風(4/5 投稿)も清水かつらの作詞でした。

『叱られて』
作詞：清水かつら　作曲：弘田　龍太郎

叱られて
叱られて
あの子は町まで　お使いに
この子は坊やを　ねんねしな
夕べさみしい　村はずれ
こんときつねが　なきゃせぬか

叱られて
叱られて
口には出さねど　目になみだ
二人のお里は　あの山を

越えてあなたの　花のむら
ほんに花見は　いつのこと

2017 年 9 月 16 日 ・

「どんぐりころころ」は大正時代の唱歌で、終戦直後の 1947 年（昭和 22 年）に小学校の音楽の教科書で使用されてから広く歌われるようになりました。金田一春彦氏はその普及ぶりから「日本の三大童謡の一つ」としています。

『どんぐりころころ』
青木存義作詞・梁田貞作曲

どんぐりころころ　どんぶりこ
お池にはまって　さあ大変
どじょうが出て来て　今日は
ぼっちゃん一緒に　遊びましょう

どんぐりころころ　よろこんで
しばらく一緒に　遊んだが
やっぱりお山が　恋しいと
泣いてはどじょうを　困らせた

2017 年 9 月 14 日 ・

雀で思い出すのは「雀のおやど」です。昭和 22 年(1947)　の文部省唱歌(1 年生用)に載っています。唱歌ですから、作詞不詳は仕方ないとして、曲はフランス民謡と書いてあって、おやっと思いました。インターネットで調べてみると、明治 20 年(1888)の幼稚園唱歌集に加部厳夫作詞で同じメロディーに作詞された「進め進め」という歌がありました(下記)。この幼稚園唱歌集は明治 20 年に文部省音楽取調掛(後の東京藝術大学)が編纂したもので、全 29 曲の詞がすべて文語で、メロディーはドイツやフランスの歌曲や古歌から取られたものが多いのが目につきます。明治の中頃から、幼児教育や初等・中等教育に欧米の音楽が導入される経緯を垣間見る思いがしました。

『雀のおやど』
作詞:不詳　曲:フランス民謡
昭和 22 年(1947)　文部省唱歌(1 年生用)

すずめ　すずめ
お宿は　どこだ
チチチ　チチチ
こちらで　ござる

おじいさん　おいでなさい
ごちそう　いたしましょう
お茶に　お菓子
おみやげ　つづら

さよなら　帰りましょう
ごきげん　よろしゅう
来年の　春に
またまた　まいりましょう

さよなら　おじいさん
ごきげん　よろしゅう
来年の　春の
花咲く　頃に

『進め進め』
幼稚園唱歌／明治 20 年 12 月
作詞:　加部厳夫　曲:　フランス民謡

1　進め　すすめ、足疾く　すすめ
止れ　とまれ、一度にとまれ
止るも　行くも、教のままに

立つも　居るも、教のままに
咲く花も、鳴く鳥も、面白き　花園や
　進め　すすめ、足疾く　すすめ

２ 学べ　まなべ、つとめて　学べ
習え　ならえ、たゆまず　習え
学びの道を、たえせず　習え
読むも　書くも、教のままに
読むふみも、書くもじも、面白き　初学び
　学べ　まなべ、つとめて　学べ

なお、同名異曲の歌に、北原白秋作詞、弘田龍太郎作曲の「雀のお宿」(大正９年)があります。

2017 年 9 月 12 日 ・

「めだかの学校」は戦後(昭和 25 年)の作ですが、「雀の学校」は戦前に作られたものです。なんとなく時代背景の違いを感じます。

『雀の学校』
作詞：清水　かつら　作曲：弘田　龍太郎

チイチイパッパ　チイパッパ
すずめの　学校の　先生は
ムチを　振り振り　チイパッパ
生徒の　すずめは　輪になって
お口を　そろえて　チイパッパ
まだまだ　いけない　チイパッパ
もいちど　一緒に　チイパッパ
チイチイパッパ　チイパッパ

2017 年 9 月 10 日 ・

「〇〇の学校」を 2 つ。まず、「めだかの学校」。

『めだかの学校』
作詞: 茶木滋 作曲: 中田喜直
昭和 25 年(1950)

めだかの学校は　川のなか
そっとのぞいて　みてごらん
そっとのぞいて　みてごらん
みんなで　おゆうぎ　しているよ

めだかの学校の　めだかたち
だれが生徒か　先生か
だれが生徒か　先生か
みんなで　げんきに　あそんでる

めだかの学校は　うれしそう
水にながれて　つーいつい
水にながれて　つーいつい
みんなが　そろって　つーいつい

2017 年 9 月 8 日 ・

手鞠歌というと、てんてんてんまりてん手まり「まりと殿様」が思い出されます。手鞠歌を題材にした童謡ですね。詩人の一人称が、3 番になると手鞠に移るところが面白く感じられます。

『鞠と殿さま』
作詞　西条八十　　作曲　中山晋平

１　てんてんてんまり　てん手まり
　てんてん手まりの　手がそれて
　どこからどこまで　とんでった
　垣根をこえて　屋根こえて
　表の通りへとんでった
　とんでった

２　表の行列　なんじゃいな
　紀州の殿様　お国入り
　きんもんさき箱　ともぞろい
　おかごのそばには　ひげやっこ
　毛槍をふりふり　ヤッコラサの
　ヤッコラサ

３　てんてんてんまり　てん手まり
　はずんでおかごの　やねの上
　もしもし紀州の　お殿様
　あなたのおくにの　みかん山
　わたしにみさせて　くださいな
　くださいな

４　おかごはゆきます　とうかいどう
　とうかいどうは　松なみ木
　とまりとまりで　日がくれて
　一年たっても　もどりゃせぬ
　三年たっても　もどりゃせぬ
　もどりゃせぬ

５　てんてん手まりは　殿様に
　だかれてはるばる　たびをして
　きしゅうはよいくに　日の光
　山のみかんに　なったげな
　赤いみかんに　なったげな
　なったげな

2017 年 9 月 6 日 ·　118

わらべ歌からもう一つ。「あんたがたどこさ(肥後手まり唄)」は、わらべ歌の中の手鞠歌のひとつで、熊本県熊本市（異説：埼玉県川越市）が舞台ということです。これを歌いながら鞠を搗いている着物の女の子が目に浮かびます。私ごとですが、母方の祖父は熊本出身で先祖は細川家に仕えた侍だったそうです。

『肥後手まり唄』
わらべ歌

あんたがたどこさ
肥後さ　肥後どこさ
熊本さ　熊本どこさ
船場（せんば）さ
船場山[には狸がおってさ
それを猟師が鉄砲で撃ってさ
煮てさ　焼いてさ　食ってさ
それを木の葉でちょいと隠（かぶ）せ

9/4
「夕焼け小焼け」の歌は、幼い頃鎌倉(杉本寺の近く)で、近所の子達と遊んだ後、家に帰った懐かしい情景を思い起こさせてくれます。大正 8 年(1919)作詞、当時小学校の教員を勤めていた中村雨紅は、最寄駅だった八王子駅から実家の恩方村までの帰路に日々目にした夕焼けの情景を歌い込んだということです。同 12 年 7 月、関東大震災の 1 ヶ月前に文化社から出版されました。

『夕焼け小焼け』
作詞：中村雨紅、作曲：草川信

夕焼け小焼けで日が暮れて
山のお寺の鐘がなる
おててつないでみなかえろう
からすといっしょにかえりましょ

子供がかえったあとからは
まるい大きなお月さま
小鳥が夢を見るころは
空にはきらきら金の星

9/2
「通りゃんせ」は江戸時代から伝わるわらべ歌。
「二人の子供が向かい合って立ち両手を繋いであげ関所をつくり、他の子供たちが列になってこの手の下をくぐっていく。この間、『とおりゃんせ』を歌い、歌の終わりで、両手を挙げていた子供らがさっと手を下ろす。ちょうどそこにいきあたった子供がつかまって関所役の子供と交代する。」(Wikipedia より)

『通りゃんせ』
作詞: 不詳　作曲: 本居長世 または 野口雨情とも伝えられる。

通りゃんせ　通りゃんせ
ここはどこの　細道じゃ
天神さまの　細道じゃ
ちっと通して　下しゃんせ
御用のないもの　通しゃせぬ
この子の七つの　お祝いに
お札を納めに　まいります
行きはよいよい　帰りはこわい
こわいながらも
通りゃんせ　通りゃんせ